



①



④



②



⑤



③

① お店の入り口 ② 商品には丁寧な説明が。ヴィンテージならではの歴史の深さを感じる ③ 移動販売に使われる予定のトレーラー。左側が1962年もの。④ 店内にはコカ・コーラやスヌーピー関連のグッズ、ファイヤーキング(※)などが並ぶ ⑤ 店主の堀之内さん。

※ アメリカアンカーホッキング社で製造する耐熱ガラス容器のブランド。1986年に生産終了した。



財部町  
CRATE

堀之内 恵津子  
Etsuko Horinouchi  
《財部町》CRATE

今しかできないことを。  
楽しみながら働く。

「屋ではないんです(笑)。雑貨はあくまでも趣味で、最初は自分の目が届く大きさのお店で食事のできるカフェをやるうかと店舗を探してたんなんです」と予想外の返答。現在の雑貨屋に至るまではいろんな過程があったという。

「もつと無理なく自分のペースで仕事できたらと考えていて。それで、カフェよりもっと自由にいろんなことに関わるやり方はないかと考えた結果、移動販売はどうかかって話になったんです」

そこで、持っていたヴィンテージのトレーラーを移動販売車に改装することを決意。

「その時にトレーラーでの販売だけじゃなくて、イートインスペースがあったらいいんじゃないかって話が出たんです。そこで、バイクを入れていた倉庫を使って、そこにイートインスペースをつくり、雑貨も置いて販売もできたら」とそうして話が進んでいく中で、飲食の移動販売は保健所

「11月にはオープンできたらと思っています。自分が病気をしたりもあって、どんどん遅れてきてしまってるけど、今度こそ(笑)」

案内された店内は、もう営業が始められそうなほど多くの雑貨たちが並んでいる。なぜ雑貨屋を開こうと思ったのだろうか。

「最初やりたかったのは雑貨の申請などいろいろなハードルがあり、まずは雑貨屋を開くことになったという。今は「やりたいこと」を実現するための経過途中。とはいえ雑貨にも想いをもって準備している。

「ここにあるのは、自分たちが憧れた50年〜90年代のアメリカのもの。現在作られているレプリカではないんです。自分たちのあこがれた歴史やストーリーを介して、次の世代と関わっていければ」と

「今まで繋がれてきたモノの歴史を次につないでいく。そこには効率や利益など考えないからこそ作り出せる雰囲気

「元々財部に縁はないんですけど頑張っている若い人たちに出会って、好きになりましたね。仲間に加えてもらっています」

移動販売で財部のお茶でパインを作ることや、お店のスペースを貸出してそこで特産品を売ってもらうなど計画はさまざま。

ヒトやコトが組み合わせたり、様々な可能性を作り出していく。場所も年齢も関係ない新たなスポットが財部に生まれそうだ。

「こういうお店って、この年になつたからこそできるんだと思います。だけど、そんな今だからできること』『今しかできないこと』を大切にしていきたいといつも話しています」

「今後はどんなお店になっていくか、まだまだ試行錯誤している最中。それでも『やりたいこと』はしっかりと見えて

CRATE

詳しくはホームページをご確認ください

<http://www.btmv.ne.jp/~crate/>

